

事務事業No.	17-	8
事業名	文化財保護経費	
会計	一般	
款	10	
項	5	
目		5
課名	社会教育課	
係名	生涯学習係	

1 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	町内の文化財	目的 (対象がどのような状態になっているか)	重要な文化財の保存と活用を図り、今後の世代へ継承する。
事業内容	町内の文化財の調査・指定及び保護を行うとともに、町内の文化財保護団体に対して補助金の交付を行うことによって存続と継承を支援する。また、郷土資料館の運営等について、町内の重要な郷土資料収集・保存及び展示を図り、今後の世代へ継承する。			

2 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	指標名			令和3年度	令和4年度	令和5年度	単位	目標方向	令和7年度(目標)
	1								
2									
3									
4									
5									
				令和3年度(決算)	令和4年度(決算)	令和5年度(予算)			
全体事業費(千円) A+B					3,404	9,572		10,311	
財源内訳	直接事業費 A				1,886	1,322		3,381	
	うち一般財源				1,886	1,322		3,381	
人件費(千円) B					1,518	8,250		6,930	
内訳	一般職員(人・千円)			0.23	1518	1.25	8250	1.05	6,930
	臨時職員(人・千円)			0	0	0	0	0	0

3 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善<※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	B必要性は変わらない	有効性	目標達成度	A達成できた
		町関与の必要性	B町が担うとともに、町民協働を進めるべき	効率性	対象者の適切性	C対象が広すぎる
					コストの削減	A削減の余地はない
総合評価	III 要改善(少しでも事業内容に改善の余地があり取り組むべき)					

(2) 事務事業の業務改善について

①R4年度の改善計画	急激な環境の変化による樹勢の衰えの把握に努める。また、伝統文化行事の後継者の人材育成の支援、郷土資料館にあつては引き続き周知に努める。	③取組の課題	伝統文化行事では後継者不足が深刻化している。また天然記念物では、変化する周辺環境への対応。郷土資料館では、学校授業に即した資料の充実が求められる。
②R4年度に実施した取り組み	天然記念物の保護作業を樹木医に委託し、樹勢の状況把握に努めた。また、伝統文化行事では、地域保存会の相談等支援を行った。郷土資料館では資料の配置換えを行い、町ホームページをはじめ、オレンジバス、文化センター及びイオンのサイネージ等を活用し、PR配信を行った。	④今後の改善計画	令和5年4月施行の文化芸術基本条例では、文化財の保存と活用、伝統文化の継承及び発展などを掲げており、今後の推進基本計画策定で検討を行う。